

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式						
E112K016		生理学(運動生理学を含む。) (Physiology)							対面						
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態							
必修	2	2	教育学部 令和2年度 以降入学生用		他	日本語		単独							
担当教員	氏名 右田 孝志(非常勤講師) E-mail 教育学部の玉江まで(k.tamae@oita-u.ac.jp) 内線 教育学部の玉江まで(7624)														
授業の概要	ひとのからだの諸器官の機能やはたらきについて、保健体育の教員に求められる専門的な知識を学ぶ。														
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7
目標1 保健体育教員として求められる基本的な知識としてのからだの諸器官の基本的な機能について説明できる。															
目標2 保健体育教員として求められる基本的な知識としての運動に対する諸器官の基本的な応答特性について説明できる。															
目標3															
目標4															
目標5															
目標6															
目標7															
目標8															
目標9															
目標10															
各DPへの関連度(計10)									5	5					
授業の内容															
1 神経線維の興奮															
2 運動と神経系および高次機能															
3 筋の構造と特性															
4 筋と運動能力															
5 運動と神経系、筋系のまとめ															
6 生体エネルギーと解糖系															
7 生体エネルギーと酸化系															
8 呼吸系															
9 循環系															
10 生体エネルギーと呼吸循環系のまとめ															
11 運動と栄養															
12 身体組成と肥満															
13 運動と内分泌系															
14 運動と体液(免疫系)															
15 栄養、免疫、内分泌と身体組成のまとめ															
ラーニング	A:知識の定着・確認	知識の定着およびその確認のために、口頭試問形式で質疑応答を行い、また小テストも行う。				工	その他の	質疑応答やプレゼンテーションなどを取り入れるなど。							
	B:意見の表現・交換														
	C:応用志向														
	D:知識の活用・創造														
授業時間外学修の内容と想定時間	準備学修	1~4、6~9および11~14限は各回のテーマに関するキーワードと思われる用語を整理しておく。 5、10および15限はそれまでの授業内容で不明な点を整理しておく(30H)。													
	事後学修	各回の授業内容を整理してまとめる(15H)。													
	想定時間合計	45													
教科書	資料配布														
参考書	人体の構造と生理機能 原田玲子他編 医歯薬出版株式会社 はじめの一步のイラスト生理学 照井直人編 羊土社 入門運動生理学 勝田茂編著 杏林書院														

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	小テスト	20%										
	定期試験	70%										
	事前学習への取り組み	10%										
注意事項	申し出のあった場合以外、授業中の飲食は禁止。 授業環境の妨げになる場合は受講を認めない場合がある。											
備考	予習を推奨する											
リンク												
	URL											
担当教員の 実務経験の 有無												
教員の 実務 経験	当該科目については、大学で約30年ほどの経験をもつ。											